

保育計画成果報告書

法人名等	有限会社伸栄総合サービス
施設名	しんえい保育園
報告者（役職）	佐藤 公一郎（園長）
住所・連絡先	静岡県浜松市中区泉2丁目31-10
	☎ 053-476-5955

○タイトル（保育計画）

みんなともだち！保育園ってたのしいね！

○主な助成備品

①対面式おさんぽ車 ②ベビープールとパタパタプール ③移動式日よけテント
④ペッタンドロップ・フリーマジックブロック

1. 保育計画策定の目的

当園は平成16年に事業所内保育所として設立され、日本人・ブラジル人・フィリピン人・ペルー人・フランス人など多国籍の園児が通う多文化共生保育園です。

平成29年に事業所内保育事業として認可されるまでは、補助金が一切なかったため、備品も他園の払い下げを譲ってもらうなど運営状況は厳しいものでした。

今回、助成をいただく中で、まずは古い備品を整え園生活の質を向上すると共に、教材を通して多文化共生保育をより推進していくことを目的に計画策定しました。

2. 具体的な実施内容

①対面式おさんぽ車

0歳児は対面式車、1歳児は立ち乗り式車と徒歩で四季を問わず定期的に散歩へ出かけることによって、地域の方々との触れ合いや自然との関わりを増やす機会を増やしました。



②ベビープールとパタパタプール

0歳児は一人用のベビープールを使用し、自分のペースで水遊びを楽しめるようにしました。1～5歳児にはパタパタプールを環境にあわせて使用し、歳児毎の活動や大小のプールにあわせて異なった水遊びができる環境を整えました。



③移動式日よけテント

移動式日よけテントは砂場では、日差しにあわせて設置場所を変えながら、夏場でも0・1歳児が安心して砂場遊びをおこなうことができました。

また移動性にも優れているので、場所をかえて夏場の水遊びや、スイカ割りにも活用しました。



④ペットアンドロップ・フリーマジックブロック

多文化共生保育において共通言語を定めることは重要であり、当園の場合は日本語となっています。ブロック遊びをとおして「貸して」「ありがとう」などの言語を覚えるとともに、一人遊びから、友達と共同して遊ぶ協調性を育む活動の一環としました。



3. その成果と評価

①対面式おさんぽ車

0歳児が対面式車を利用することにより、おんぶをしながら散歩へ出かけていた保育者の負担が軽減し、月齢の高い1歳児は歩きながら散歩をすることができるようになりました。これにより、園児のペースにあわせた散歩をしながら、今まで触れ合う機会の少なかった地域にも散歩へ出かけ、人や自然と触れ合う機会が増えました。

②ベビープールとパタパタプール

当園は混合クラスのため、歳児にあわせた活動が難しい場合もありましたが、ベビープールを0歳児が使用することによって、歳児毎に活動を設定することができました。また、パタパタプールは丈夫で持ち運びもしやすいので2～5歳児にも使用でき、既存のプールと併用し、大小のプールで異なった水遊びができる環境を設定し、プール活動に取り組むことができました。

③移動式日よけテント

移動や設置が簡単にできる為、砂場の日差しにあわせて移動したり、夏場のプール活動などにあわせて様々な場所で使用することができました。

④ペットアンドロップ・フリーマジックブロック

順番を待つこと、「貸して」「ありがとう」と言えることは、日本社会で生きていく外国籍の子どもにとって重要なことであり、友達と一緒にどうやって使えばいいのか、その際、自分の想いをどうやって友達に伝えるのかを、ブロック遊びを通して社会性や協調性を学ぶことができました。

4. 今後の課題と展望

日本では多文化共生の意識や環境は、あまり整っていません。少なからずとも外国人に対する差別や偏見があることも事実だと思います。

多文化共生保育における重要なことは、お互いの文化を認め共通理解を持つことであり、外国籍の子どもが日本で生活をしていくうえで、日本の文化や言語を理解することは、必要不可欠です。日本人も外国人も、それぞれのルーツをお互いに認め合う基礎を幼児期に育むにあたり、今回購入させていただいた教材を活用していきたいと思います。

以上